

◎注意事項をよくお読み下さい

# りそな 経済フラッシュ

## (日銀金融政策決定会合)

2019/9/19

りそなホールディングス 市場企画部



### 〇概況

- ◆ 政策金利▲0.1%、10年金利目標水準0%程度、国債買入れペース年間80兆円めどは変更なし
- ◆ 景気判断は「基調としては緩やかに拡大している」と据置き
- ◆ 次回会合で経済・物価動向を点検するとし、欧米中銀が利下げに動く中、必要あれば日銀も動くとのスタンスを示す

✓ 日本銀行は9月19日の金融政策決定会合にて、「**長短金利操作付き量的・質的金融緩和**」の継続を決定した。

✓ 主な政策は以下の通り。

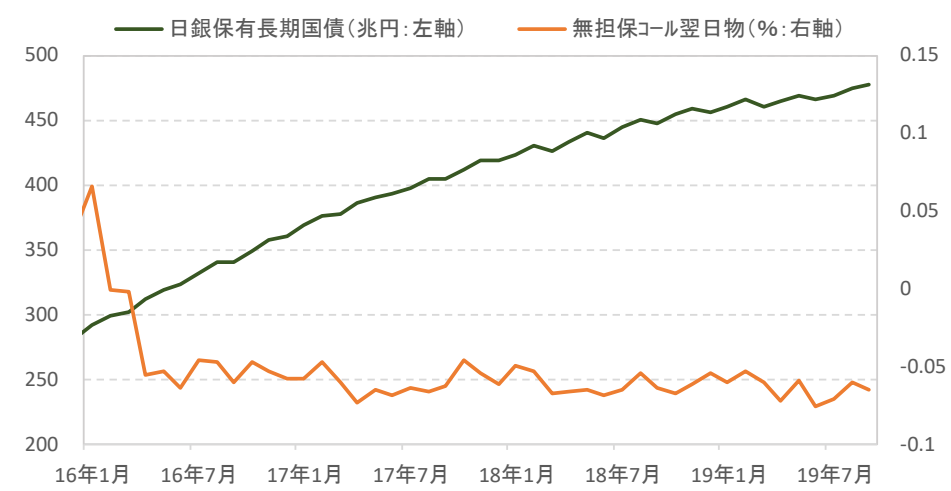
✓ 政策金利のフォワードガイダンス：海外経済の動向や消費税率引き上げの影響を含めた経済・物価の不確実性を踏まえ、当分の間、少なくとも2020年春頃まで、現在のきわめて低い長短金利の水準を維持。

✓ 長短金利操作（イールドカーブ・コントロール）：日銀当座預金残高のうち、政策金利残高に▲0.1%のマイナス金利を適用。また、10年国債利回りがゼロ%程度で推移するよう、長期国債買入れを行う。買入れ額は保有残高の増加額年間約80兆円をめどとして弾力的に実施。金利は、経済・物価情勢に応じて上下にある程度変動しうるものとした。ETF・J-REITの買入れは、それぞれ年間約6兆円・約900億円ペースで保有残高拡大。CP等・社債等はそれぞれ約2.2兆円・約3.2兆円の残高を維持。買入れ額は、市場の状況に応じて、上下に変動しうるものとした。

✓ 声明文では、以下の文言を新たに追加。「日本銀行は、『物価安定の目標』に向けたモメンタムが損なわれる恐れについて、より注意が必要な情勢になりつつあると判断している。こうした情勢にあることを念頭に置きながら、日本銀行としては、**経済・物価見通しを作成する次回の金融政策決定会合において、経済・物価動向を改めて点検していく考えである**」とした。

✓ 先週のECB理事会、昨日のFOMCで両中銀が利下げを実施。日銀が何もしなければ主要国の中で金融緩和に消極的とされ、円高進行のリスクがある。次回会合までの点検の結果、必要あれば日銀も動くということを示す狙いがあったと見られる。

【日銀が保有する長期国債残高と翌日物金利】



【2019-2021年度の政策委員の大勢見通し（7月時点）】

	実質GDP		消費者物価指数 (除く生鮮食品)	消費税率引き上げ・ 教育無償化政策の 影響を除くケース
(対前年度比、%)				
2019年度	+0.6% ~ +0.9%		+0.8% ~ +1.1%	+0.6% ~ +0.9%
4月時点の見通し	< +0.7% >		< +1.0% >	< +0.8% >
2020年度	+0.8% ~ +1.0%		+1.1% ~ +1.4%	+1.0% ~ +1.3%
4月時点の見通し	< +0.9% >		< +1.3% >	< +1.2% >
2021年度	+0.9% ~ +1.2%		+1.3% ~ +1.7%	+1.3% ~ +1.7%
4月時点の見通し	< +1.1% >		< +1.6% >	< +1.6% >
	+0.9% ~ +1.2%		+1.4% ~ +1.7%	+1.4% ~ +1.7%
	< +1.2% >		< +1.6% >	< +1.6% >

【出所】日本銀行、Bloomberg